

(公社)日本ペストコントロール協会総会報告

編集委員会

(公社)日本ペストコントロール協会は、昭和43年11月15日に設立、昭和47年に社団法人、平成25年に公益社団法人に移行しました。現在、連携会員47都道府県協会、所属会員962社で令和元年より83社増、賛助会員42社(同3社増)(令和3年度末現在)で構成されています。



総会風景

開催日：令和4年5月25日(水)

場 所：CIVI研修センター秋葉原

第51回定時総会

1. 会長挨拶

人材難、原材料の高騰が業界にどのような影響を及ぼすか見通しが見えない状況にあるが、皆さんと協力して揺るぎない業界を作っていきたい。これまで国の衛生行政の一端を担ってきた。しかしながら認知度や評価が低い。本日のご来賓の和田政宗先生が国会でペストコントロールに関して質問いただいた。大変うれしく思っている。また、そのだ修光先生は厚生労働衛生に長年携わってこられた。PCOはこれまで環境部会だったが厚生労働部会に移していただいた。先生方の応援もいただいてこの業界の発展に尽くしていきたい。



2. 来賓挨拶

・和田政宗参議院議員

コロナの中で協会の皆様なしでは国の対処はできなかった。心から感謝いたします。ワク

チンの優先接種も認めてもらった。ペストコントロール業の認知度を深めることに尽力していきたい。3月の参議院予算委員会で公的登録制度を作ることを質問したところ、後藤厚労大臣から「標準的な作業手順書の策定など具体的に提案いただければ進めていける」と前向きな答弁をいただいた。総務大臣には職業分類にペストコントロール業の明記をお願いしたが、しっかりと明記されるよう頑張りたい。同席されているそのだ修光参議院議員は厚生労働行政に精通している。ともにペストコントロールのさらなる活性化と役割を担うことに尽力したい。



・そのだ修光議員

皆様の業界をしっかりと守っていきたい。6年間厚生労働委員、委員長をやってきた。菅内閣はコロナとの戦いだった。それがあって今がある。和田先生とともに皆様の要望を叶えるお手伝いをしたい。



引き続き大阪協会の石橋慎示氏が議長に選出され、議事が進行された。

3. 令和3年度事業報告書及び収支計算書・財務諸表が承認された。

令和3年度は新型コロナをはじめヒアリ、豚熱、鳥インフルエンザや自然災害に対応した。ペストコントロール技能師を一般にオープン化し、eラーニングと消毒作業の実技講習を全国各地で行った。

収支計算では事業活動収入1億4,426万円、事業活動支出1億3,182万円、当期収支差額1,244万円、次期繰越収支差額は9,161万円、正味財産期末残高は1億2,560万円であった。

4. 令和4年度事業計画書及び収支予算が報告された。

ペストコントロール技術者養成講座、更新時講習、感染症対策講習会、防除技術研修会、ペストコントロール技能師認証講習会・更新教育、ペストコントロールフォーラム長野大会(2月9～10日)、ペストロジー学会埼玉大会支援(12月5日～6日)、防除作業従事者研修会指導者講習会(10月6日)、FAOPMA京都大会(11月6日～8日)、NPMAボストン大会(10月11日～14日)が開催される。事業収入1億2,959万円、事業支出1億4,460万円とする。